

新刊書紹介

「社会の中で虐げられている人たちから学んだ — タグレ枢機卿の人生、そして希望」



教皇フランシスコが選出された2013年のコンクラーベ(教皇選挙)によって、世界中にその名が知られるようになったタグレ枢機卿。彼の話は、なぜ人の心を打つのか。彼は、車も持たず、人に会うためにバスで外出し、華美な服装を求めず、ごく普通の平服を好む。本書は、教皇フランシスコのスタイルに最も近い枢機卿と言われ、現ローマ教皇庁福音宣教省長官を務めるルイス・アントニオ・ゴキム・タグレ枢機卿になされたインタビュー記事である。

サンパウロ 1,980円(税込)



浦上キリシタンを偲ぶミサで祈りを捧げる司教と石川地区の司祭団

大分教区新司教 森山信三師の叙階式日程
大分教区新司教の森山信三師(福岡教区司祭)の司教叙階式の日程が発表されましたので、お知らせします。

叙階式日程
日時 7月3日(日) 14:00
場所 J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分県大分市金池南 一丁目5番1号
TEL 097-576-7555
FAX 097-573-6210
https://goo.gl/maps/P7uQF2jiUhd5W3A
スルピス 森山信三被選司教の略歴
1959年1月17日福岡市生まれ、88年3月司祭叙階(福岡教区)、福岡教区内の小教区主任司祭、幼稚園園長を歴任。2020年4月カトリック中央協議会出向、21年4月カトリック中央協議会事務局長。22年4月5日大分教区司教に任命される。

聖ペトロ使徒座への献金 (6月26日)
教皇は毎年、世界各地を訪れ、人々の苦しみや悩みを聞き、優しい笑顔で力づけ、数々の援助を与えます。キリストの代理人、教会の最高牧者である教皇は、祈りと具体的な援助を通して全世界の人々にいつも寄り添っているのです。この教皇に心を合わせて、わたしたちも世界中の苦し

浦上キリシタンを偲ぶミサ

金沢教会

明治初年、長崎から金沢に流された浦上キリシタン約500人を偲ぶミサが4月29日、カトリック金沢教会で行われた。雨が降ったため、予定していた卯辰山での野外ミサは教会聖堂のミサに変更された。ミサは名古屋教区の松浦司教と石川地区のチーム司祭、協力司祭、計6人の共同司式で進められた。金沢教会信徒のほか、名古屋教区信徒使徒職評議会のメンバーが参列し、共に祈りをささげた。長崎四番崩れと呼ばれ

た浦上キリシタンは、町中心部に近い卯辰山で4年間収容生活を送った。松浦司教は説教で、雪国に流され過酷な日々を送った浦上キリシタンの歴史を振り返り、この金沢の地で、あるいは富山の地で、多くのキリシタンが苦しみのうちに信仰に生きてきた。そのことを思いながら、彼等の信仰から力をいただき、小さな行動、パンをささげていこうと説いた。この日のミサに先駆け、4月16日、浦上キリシタンの記念碑が建つ卯辰山の広場と周辺の遊歩道で、金沢教会の信徒有志が清掃活動を行い、冬の間溜まった枯れ葉や枯れ枝などを取り除いた。記念碑広場は1968年、金沢教会の創立80周年を記念して整備された。浦上キリシタンが収容された湯屋と呼ばれる旧共同浴場の跡地から近い山腹にある。整備当時に植えられた樹木は50年を経ても大きく生長し、ミサが行われる4月下旬には、毎年、広場全体を覆う新緑のドームを形成している。

2022年度正平委学習会の年間テーマ 「やられた方から歴史を見る」 — 誰一人置き去りにしない —
(趣旨) 「やられた方から歴史を見る」ということは、イエスに従う私たちの現実に対する姿勢につながります。社会も、組織も、誰一人残さないことを軸とする包摂的でないのちのつ

安保法制、敵基地先制攻撃の違憲 — 講師 猪瀬俊雄さん(正平委委員、元裁判官)
④ 10月14日(金) 10:30 福信館
テーマ「誰も置き去りにしないSDGs」 講師 古澤礼太さん(中部大学教授)
⑤ 11月11日(金) 10:30 福信館
テーマ「見捨てられる福島原発事故」 講師 大沼淳一さん(原

カトリック看護協会(JCNA)主催 松浦司教様との集い
『兄弟姉妹に寄り添う』(イエスのまなざし)のころでケアする医療、看護、介護における体験や悩みを松浦司教様と分かち合います。
日時 7月2日(土) 13:30~15:30
参加方法 リモート(ZOOMでの開催)
参加費 無料
対象 カトリック医療従事者、カトリックの精神を重んじた医療・看護・介護に関心のある方
申込み・問合せ JCNA名古屋支部 E-mail: jonanagoya@gmail.com
または、社会福祉法人聖霊会 カトリック社会事業室 村木 電話:052-1832-1181(内線 7354)
締切り 6月29日(水)
主催 日本カトリック看護協会名古屋支部
申し込みされたメールアドレスに、ZOOMの招待状をお送りいたします。

ウクライナ危機人道支援 緊急募金受付継続中
カリタスジャパンの担当である成井大介司教様より、今回のロシアによるウクライナへの大規模軍事侵襲による、緊急募金の呼びかけがありました。ウクライナにおいてカリタスは2014年のロシアのウクライナへの攻撃以降、緩衝地帯に暮らす人々への緊急支援を続けてきましたが、今回もいち早くウクライナ全土で長期・短期避難所の提供や、移動希望者の送迎、精神的ケア、離れ離れになってしまった家族の再統合、国境付近で待機する難民への食糧支援などを行っています。また、周辺国のカリタスと協働し、ヨーロッパからの食糧や衣料品の調達を開始しています。カリタスジャパンは、ウクライナの状況と、ウクライナにおけるカリタスの活動を考慮し、「ウクライナ危機人道支援」緊急募金の受付を決定しました。お寄せいただいた募金は、ウクライナとその周辺国で行われる人道支援活動のために活用させていただきます。名古屋教区内の各小教区におかれましても、ぜひ皆さまに呼びかけをよろしく願いいたします。
郵便振替番号: 00170-5-95979
加入者名: 宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン
通信欄に「ウクライナ危機人道支援」と明記
名古屋教区カリタス福祉委員会 担当司祭 山野聖嗣

Дуже дякую Д्यू-Джїє-Джак-Джурї-Горл-Даттценко (守山教会)
多治見教会の皆様、復活祭おめでとうございます!
2月24日ロシア軍隊はウクライナに侵襲して、ウクライナで激しい戦争が始まりました。私の両親は私が生まれた町にロシアの戦車が近づいたと聞いてすぐ避難するために、父と母と姉は朝早く家を出ました。ウクライナの西部まで1000キロ以上超えて、三日間のあとたどりつきました。避難したい人が多かったため、ウクライナの国境を渡るため、手続きに17時間もかかりました。父は70歳で、母は67歳なので、大変な道でしたが、やっと3人で無事にスロバキアという安全な国につきました。
国連によると、もう400万人以上ウクライナを脱出しました。それは子供たち、女性、60歳以上の男性です。ほとんどの場合はポーランド、ドイツ、スロバキア、アメリカ合衆国、カナダなどへ避難します。
嬉しいことで、ウクライナ人は日本へも避難できます。現在までに、30人ぐらいのウクライナ人は愛知県と岐阜県に避難しました。自治体はウクライナ人が日本で安全だと心理的に快適に感じられるように可能な限りのことをしています。
私が多治見教会のミサに行くときに、信者さんから「ウクライナの家族が大丈夫かどうか」よく聞かれます。教会の中でウクライナの避難者のために募金箱もあります。それは、涙がでるほど感動いたしました。多治見教会の皆さんに心から感謝いたします。
復活祭は新しい生活が始まるという希望を与える祭です。これからも、日本人とウクライナ人の心を合わせて、ウクライナでも、世界中でも戦争がない新しい生活ができるように神様にお祈りを続けましょう。

ウクライナ人を支援しよう、支援の輪が広がる
多治見教会の広報委員 二回の堅信講座に参加するに当たっている加藤孝子さんから、ウクライナ人のイゴール・ダツツェンコさんについてメール連絡がありました。
「イゴールさんは2019年12月に正教多治見教会の皆さんの祈りが力強い支援になっていて、遠い国で起こったこの戦争から改宗し、守山教会へ移るまでの2年間を多治見教会信徒として祈りに捧げていました。3月から始まったこの戦争」
「イゴールさんには、アールデイ神父と多治見教会の皆さんの祈りが力強い支援になっていて、遠い国で起こったこの戦争から改宗し、守山教会へ移るまでの2年間を多治見教会信徒として祈りに捧げていました。3月から始まったこの戦争」
多治見教会の皆さん、争いに関心を持って、私たちが復活したイエスとともに平和のために働くことができれば、祈りを続けましょう。



復活祭の日にウクライナ避難民とミサに参加したイゴールさん(左)とボクダン神父(中央)